

天高く舞い上げれ！ かわなみしょう 川並小伝統 『ふるさと風揚げ大会』 開催！ たこあげ

・ 1月14日（火）午後 揖斐川右岸36K付近（大垣市馬の瀬町地先）の河川敷において、大垣市立川並小学校の冬の恒例行事「ふるさと風揚げ大会」が行われ、児童148名とその保護者あわせて約250名が風揚げをして楽しみました。この風揚げ大会は、30年以上続く川並小学校の伝統行事で、風は児童の手作りのものです。

当日は晴天に恵まれましたが風が弱く、「例年はもっともっと高く揚がっている」とのことでした。それでもうまく操り、風に乗った風は、大空へぐんぐん舞い上がっていきました。児童の一人は、「風に乗るまでが難しかったが、風が高くなったときはとても感動し嬉しかった！」と自慢げに話してくれました。



手作りの風を揚げる川並小学校の児童たち

※当日は、多くのマスコミ関係者が現地取材に訪れ、翌日に大きく新聞報道がされました。

「風」の語源由来

風を「タコ」と呼ぶのは関東方言で、昔は、関西では「イカ」と呼ばれていました。紙の尾を垂らして揚がる姿が「蛸（タコ）」や「烏賊（イカ）」に似ていることから名付けられたと言われています。風は中国が発祥地とされており、日本には平安時代初頭に入ってきたそうです。また、日本特有のタコという呼称が出始めたのは江戸時代からだと言われ、それが現在に至っているそうです。

